

患者ら体操学ぶ

製鉄記念病院のサロン

治療生活の質上げる



作業療法士のアドバイスに沿って
体を動かす参加者

製鉄記念室蘭病院(室蘭市知利別町)で27日、がん患者を対象にしたがんサロン「はあと」が開かれ、作業療法士が体操を教えた。

がんサロンは毎月開催。今回は、がん治療の経験者から「太りやすくなった」という声を聞き、サロンを担当する看護師らが同病院リハビリテーション部へ協力を依頼。作業療法士2人による体操教室を初めて開くことになった。

この日は、がん患者や家族ら女性10人が参加。「乳がんのリハビリテーション運動について」と題し、作業療法士が乳がんの術後には肩の関節を動かしていくことになることを説明した。タオルを使って腕を持ち上げる体操やかかとを上げ下げする運動なども紹介した。

作業療法士の高瀬由美子さんは「無理のない範囲で、毎日続けると良いですね」などと話した。参加者たちは自分のペースで挑戦していた。

(芝垣なの香)